WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報

No. 10　October　10,　2008

ジョークの心得三か条：

1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
3. ジョークは簡潔が至上です。

ジョークと私

人生いろいろ墓碑銘いろいろ

土屋　政雄

日本の墓石は、一般に「…家之墓」とあったり、戒名が刻まれたりしているだけで、あまり面白いのがありません。私の横に見えるのは近所にある三木露風の墓です。歌にちなんで「赤とんぼの墓」と呼ばれていますが、大きさを除いて特別のことはありません。

しかし、欧米の墓碑銘にはなかなか風変わりなものがあるようです。今日は、めぼしいものをいくつか拾ってご紹介しましょう。

まずは、Anna Wallace さんの墓。

The children of Israel wanted bread,
And the Lord sent them manna.
Old clerk Wallace wanted a wife,
And the Devil sent him Anna.

(Ribbesford, England)

「イスラエルの民が飢えたとき、神はマンナを賜った。老ウォレスが妻を求めたとき、悪魔はアンナをつかわした」とは、クサンチッペもかくやという悪妻だったのでしょうか。

Owen Moore さんはこんな人でした。

Gone away（逝っちまった）
Owin' more（払いきれない）
Than he could pay.（借金抱えて）

(Battersea, London, England)

2 行目に名前（Owin' more＝Owen Moore）が読み込まれているのがしゃれています。

John Penny さんの墓にはこうあります。

Reader, if cash thou art
In want of any,
Dig 4 feet deep.
And thou wilt find a Penny.

(Winborne, England)

「これをご覧の方、懐が寂しかったら、この下 4 フィートのところに 1 ペニー見つかります」って、まあ確かに…。

名前を明かすのを断固拒否した人もいます。

I was somebody.（われは何者かであった）
Who, is no business（誰なの、だと？）
Of yours.（おまえの知ったことか）

(Stowe, Vermont)

ごもっとも。

仰天ものは、同じくバーモント州にあるらしい次の墓碑銘です。こんなのあり？

Sacred to the memory of
my husband John Barnes
who died January 3, 1803.
His comely young widow, aged 23,
has many qualifications of a good wife,
and yearns to be comforted.

「若くかわいい寡婦 23 歳は、良妻たる資格を多く有し、慰められんと欲す」って、こりゃ、死者を悼むとか功績を称えるという常識の埒外にありますね。新しい旦那さんの募集広告か？

今月のジョーク

I want to die like my father, peacefully in his sleep, not screaming and terrified, like his passengers.

(Bob Monkhouse)

第 10 回研究発表会

ウッディ・アレン版「ソクラテスの弁明」

佐川　光徳

古代ギリシャの哲人にして恐妻家の元祖ソクラテス(c.470-399B.C.)が、不当な告発を受けて死刑を宣告され、毒を仰いで従容として死に就いたことは、教科書で習ったとおりです。

彼が法廷でなした堂々たる弁明と、友人による脱獄の勧告を退けたエピソードは、弟子のプラトンが著した『ソクラテスの弁明、クリトン』（久保勉訳、岩波文庫）によって、あまねく世に知られています。

この常識に挑戦したのがハリウッドの鬼才ウッディ・アレン。彼の怪作 *My Apology*（ぼくの言い訳）から、さわりの部分を紹介しましょう。

かねてからこの人に憧れていたアレンは、自分が囚われの身の哲人になった夢を見ることがよくありました。この日も、面会に訪れた二人の友人 A と B に、アレン（＝ソクラテス）は、お得意の哲学問答をしかけます。

A: Ah, my good friend and wise old sage. How go your days of confinement?

Allen: What can one say of confinement? Only the body may be circumscribed. My mind roams freely, unfettered by the four walls and therefore in truth I ask, does confinement exist?

「肉体は牢獄の壁に取り囲まれていても、精神は自由に(思索の世界を)飛翔する。されば、拘束などわが身にとって存在しないも同様ではなかろうか」

と勇ましいところを見せるのですが、相手も負けてはいません。

A: Well, what if you want to take a walk?

Allen: Good question. I can't.

この形而上 vs 形而下問答は、形而下側の勝ち。

次に友人 A は、彼の死刑が満場一致で決定されたことを告げました。

Allen: When is the sentence to be carried out?

A: What time is it now?

Allen: Today!?

A: They need the jail cell.

Allen: Then let it be! Let them take my life. Let it be recorded that I died rather than abandon the principles of truth.... Weep not.

A: I'm not weeping. This is allergy.

哲人の面目躍如たるせりふまわしではありませんか。しかし、友人 A の流す涙がアレルギーのためだったとは…。

対話は、死をめぐっての問答に移ります。

B: Most men regard death as the final end. Consequently they fear it.

Allen: Death is a state of non-being. That which is not, does not exist. Therefore death does not exist. Only truth exists.

「死とは無の状態だ。無とは存在のない状態だ。故に、死は存在しない。存在するのは真理のみである。」

しかし、処刑の方法が、毒薬によると伝えられるやいなや、アレンの態度は一変します。

Allen:...Look, I'm going to level with you－I don't want to go! I'm too young!

「ぶっちゃけたところ、私は死にたくない。まだ若いんだ」

この時、ソクラテス 70 歳。「古来稀なり」の年齢に達していたことに注意しましょう。

なおも、友人たちはアレンの未練がましさを攻め立てます。

A: But you have proved many times that the soul is immortal.

Allen:... See, that's the thing about philosophy－it's not all that functional once you get out of class.

「哲学の上でならそうだ。だが、哲学なんていったん教室の外に出たら、何の役に立つものか」

ついに死刑執行人が、アレンを押さえつけて毒薬を飲ませようとするに及んで、彼は悪夢から覚めるのです。

パロディに仮託し、わが身をおちょくりながら、同時に聖人ソクラテスを巧妙かつ本質的に批判することに成功しているのは、さすが天才ウッディ・アレンの手腕です。題名には、「(ソクラテスさん）ごめんなさい」の意が込められているようです。

Woody Allen: *Side Effects* (Ballantine Books, 1981)

第 10 回研究発表会

私の英語悪戦苦闘史

深澤　満穂

1)　'63 年。アメリカ西部の大学に留学中の N 君"Kennedy was assassinated."と聞いて、"I hope he'll soon recover."と発言。クラス中に大爆笑を起こした。

2)　同じ年、私の例。始めて行った西海岸でコーラを飲んで"How much?"と聞くと、先方も"Cola."と言う。二人の間で「コーラ、コーラ」の応酬。ついに先方のおやじさんが取り出したのは、なんと 25 セントコイン。受験英語で鍛えた私は、「僕の飲んだのは COLA と綴る。コインは QUARTER である。貴下の英語は訛っている」と説教。おじさん少しも怒らず、"Yes, you are right."　彼は「クオーター」と発音しているらしいのだが、私には「コーラー」としか聞こえず、戦場での前途多難が予想された。

3) N.Y. に駐在員事務所開設の朝 8 時、秘書はまだ来ていない。突然鳴る電話。5 - 6 人の男性が一斉に「電話だ！　電話だ！」。若いのが出る。「ハロー、もしもし、ああ、良かった。日本人だ！」　次はアメリカ人。チンプンカンプンながら、"Yes" の繰り返し。二週間後わけの分からぬものが送られてきて、会社はお金を払わざるを得ぬ。これに懲りて次からは何でも"No."おかげで翌日から必要な物まで来なくなる。やがてネイティブの秘書嬢登場。トラブルを流暢な英語（当たり前）で解決、実に頼もしく思われた。

4) 当時私の勤務先は「東レ」、競争相手は「帝人」。デパートや人の集まる所では、どこでも「テイジン」のアナウンス。これが "Paging"（お呼び出しを申し上げます）と分かるのに 2-3 日かかった。

5)　ワシントンに滞在中の大蔵省のお役人の一人が肩がこるので貼り薬を買いに行かれた。「この国にはトクホンは売っていなかったよ」。もう一人の友人「馬鹿だね、トクホンは日本語だよ」「ああ、そうか」「あれは英語ではサロンパスと言うんだよ」。

6)　駐在前から「アメリカは怖い所だ」と大勢の人に聞いていた。ある夏の昼、5 番街の雑踏の中で 2 メートルもある大男と遭遇。黒メガネで人相も悪い。勿論、会ったこともない。私にガンをつけている。不安のうちに眼前の大男は私を羽交い絞めのように通せんぼ。こちらは咄嗟に脳天を割られるのではと守備態勢。彼が発した第一声の"Sir" は意外とソフトトーン。続いて、"Your pants are open!" 親切なアメリカ人だったのだ。先入観とは怖いものである。

7)　1965 年 10 月に起きた N.Y.全州に亘る大停電は、私の駐在中の一大事件であった。夜になって、10 階のオフィスから見る夜景は、車のヘッドライトと赤いテールランプだけで、稀に見る美しさであった。丸一日続いた停電のおかげで住民は皆大変迷惑した。にも係わらず、原因とかお詫びとか州政府から何の説明も無かった。ただ、翌々'67 年になって「'66 年の N.Y.州の人口が急増した」という噂が流れた。

8) 帰国した'69 年頃、あるアメリカの友人から「君の英語はおかしいぜ。N.Y.に住む、初老のユダヤ人の婦人のようだ」と言われビックリ仰天。何しろ駐在の 4 年間、私は一回り年上のユダヤ人の女性（秘書兼会計士）と一緒に仕事をしたのだ。その間に彼女の口調がすっかり私に移ってしまったのである。

9)　'89 年シンガポールに駐在して「日本人はなかなか外人の会話に入れない」ことを痛感。「英語の上手い下手」より「話す内容」を持っていないからだと悟り、手始めに「週刊新潮」の「笑い話」を英訳して話の種とした。これが段々受け入れられ、パーティーに行くと, "What's new today?"と、催促する友人が増えた。

10) 数年前、N.Y.感傷旅行での私のジョーク。スノビッシュな高級レストラン。コーヒーに入る前、若女将との会話。"I am afraid your coffee may taste muddy." "How come?" "Because your menu says Just ground!" "Oh, that's good."と破顔一笑。

11)　日本人なりの優れた英語のジョークを聞いた例。ソニーの盛田会長が外人記者クラブで演説された時の出だし。"Many of my American friends usually begin their speech with a joke. But I don't. Because I am Japanese." 列席の外国人がどっと湧いた。

12) スポーツに関するジョークでは「ゴルフ」が圧倒的に多い。先週名古屋から新幹線に乗った。後ろから青年が大きなゴルフバッグを担いで乗ってきた。坐るや否やバッグを開けてパターを取り出す。買ったのか、賞品か？　見ほれるのはまだ良い。青年は立ち上がると通路に出て練習スウィング。流石に周りの乗客もこれには苦々しい思い。そこに車掌さんが現れた。一言「お客様、グリーンへどうぞ」。

ホームページ(HP)開設のご案内

2007 年 3 月に第 1 回の産声を上げてより、隔月開催で、先 9 月の研究会で第 10 回になりました。既にご案内の如く、9 月より待望の HP が立ち上がり、皆様のお陰で本会も日を追って充実して参りました。

この HP は皆様が英語のジョークを楽しむ一助として大いに役立つものと思います。

HP には、機関紙"WE, JOKERS"の外、会員が「月刊リベラルタイム」(株・リベラルタイム社発行）に掲載している英語のジョークの解説コラムにリンクして楽しめるページや、会員が執筆した著書の紹介など、皆様の好奇心が満足できるページと確信しております。

URL：www.eigojoker.com

この HP を一層充実させるため、皆様のご提案をお待ちしております。　（総務：植田良明）

第 11 回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：**11 月 15 日（土）午後 2 時－4 時**
- 会場：平河町 Mercury Room (クオリティ株式会社 8 階会議室)
  （東京都千代田区平河町 1-4-5 平和第一ビル）
- 交通：地下鉄・有楽町線麹町駅 1 番出口より徒歩 2 分。詳しくは、
  http://www.quality.co.jp/ で。
- 発表者：
  長谷川真弓会員「カナディアン・ジョーク―風邪をひかないバクパイプと私」
  豊田一男会員「決まり文句のもじり」
- 特典：
  参加者は、「QUESTION BOX からの挑戦」に応募することができます。
- 参加費：会員・非会員とも５００円
- 終了後、近くの喫茶店で、交流会を開きます。どうぞご参加ください。

どうぞよろしく＝新入会員紹介アンケート＝

新堂睦子　世田谷区練馬区　① 私にとってジョークとは：ジョークは人生の楽しみ。② 私のお気に入りジョーク：いい古されたジョークです。(There is nothing new under the sun.) 'Will there be a Third World War?' 'No, but there will be such a struggle for peace that not a stone will be left standing.'

WELL-MADE JOKES ANNOTATED

- Since letters are made up words, how can words be made up of letters?
  letters(手紙)>words(単語)>letters(文字)
  という不等式が心憎いばかりではありませんか。
- She is at the awkward age. She stopped asking where she came from and refuses to say where she is going.
  She が子どもであったのは、はるか昔のこと。今や孫である時期が近づきつつあります。
- Before marriage a woman expects a man. After marriage she suspects him. After he dies she respects him.
  平均寿命の男女差に感謝するばかりです。
- Land developers and conservationists have a lot in common. A land developer is someone who wants to build a house in the mountains this year. A conservationist is someone who built a house in the mountains last year.
  笑いよりは、より多くの悲哀を誘う逸品です。

ジョークは、豊田一男会員の著書『英語しゃれ辞典』(*Punctionary*)（研究社、2003 年）より引用。

WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報 第 10 号
発行日：2008 年 10 月 10 日
発行人：世話人代表 宮本倫好
編集人：佐川光徳
発行所：英語のジョークを楽しむ会
〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-4-5
平和第一ビル クオリティ株式会社 気付
TEL:03-5275-6121, FAX:03-5275-6130
問合せ先：renraku@eigojoker.com